

報道関係各位

ART OSAKA 2019 クロージングレポート

ART OSAKA 2019

2019.7.6[sat]ー7.7[sun] HOTEL GRANVIA OSAKA 26th Floor

ART OSAKA 2019 過去3年で最多来場者数を記録し、好調なセールスで閉幕

入場者数 3060名(昨年比 2700名)

売上総額 5692万(昨年比 4160万円)

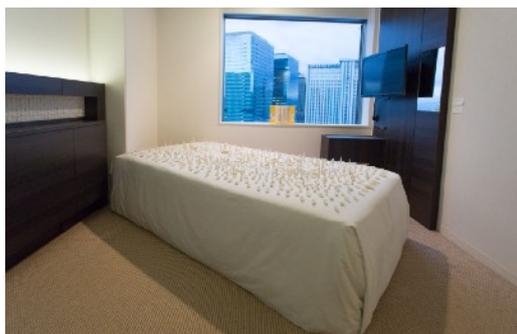


今年で 17 回目を迎える『ART OSAKA 2019』が 7 月 5 日(金)プレビュー、6 日(土)、7 日(日)一般公開の計 3 日間、ホテルグランヴィア大阪 26 階にて開催されました。

今回のART OSAKAは、台湾、韓国から5軒のギャラリー、国内からは大阪をはじめ、京都、兵庫、愛知、神奈川、東京より49軒、総勢54軒（新規：7軒）の現代美術のギャラリーが、ホテルグランヴィア大阪26階の客室を満たしました。

来場者数は過去3年の中で最多となる3060名を記録し、出展ギャラリーからは、「ART in PARK HOTEL TOKYOに行かれた方が、ART OSAKAを知り来場されていました。」という声も複数寄せられ、東京でのフェアの開催が相互に良い効果をあげてきていることが実感できました。

注目のプログラムとしては、昨年好評であった「ベストプレゼンテーションアワード」を今年も実施。会期中を通して最も票を集めた「オーディエンス賞」の栄えある第1位は、福田尚代を個展形式で紹介した小出由紀子事務所が選ばれました。



1. オーディエンス賞第1位：福田尚代個展、小出由紀子事務所展示の様子



2.福田尚代《浮舟》、小出由紀子事務所

書物の1ページ1ページを折りたたみ扇状にした《翼あるもの》シリーズと、消しゴムで船や墓石などをかたどりベッド一面に敷き詰めたインスタレーション《浮舟》を展示し、繊細で緻密な手作業での行為の集積に来場者は魅了されました。

第2位は大阪芸術大学、角部屋を使い在学生から卒業して間もない若手作家の作品を多数紹介し、フレッシュなエネルギー溢れる展示を展開。第3位は、新谷圭子をExhibition PLUSで個展形式で紹介したGALLERY麟が選ばれました。初日に即日開票された、プレビュー賞は1位カペイシャス、2位タイで、Gallery OUT of PLACEとアートコートギャラリーが票を集めました。



3.福田尚代《翼あるもの》、小出由紀子事務所



4.オーディエンス賞第2位：大阪芸術大学展示の様子



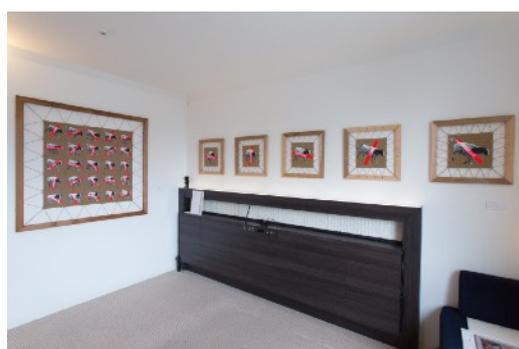
5.オーディエンス賞第3位：新谷圭子個展、GALLERY麟展示の様子



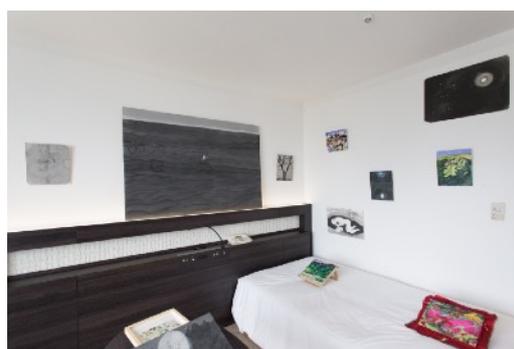
6.会場に設置されたプレビュー賞発表パネル

35歳以下の若手作家を個展形式で紹介する「U-35セクション」では、2軒のギャラリーが参加。アートコートギャラリーの新平誠洙は、時間の経過と異空間の重なりを描いた《Inversion》シリーズの新作を発表。描いたイメージを撮影し、コマ送りに繋いだ映像も展示しました。

CRISPY EGG Galleryの鈴木愛弓は、絵画、ドローイング、立体作品まで多岐にわたる表現で作品を紹介。油絵では、キャンバスの周りに刺繍がほどこされるなど新たな表現も試みられており、次々と表現方法を模索していく若手作家の動向に今後も目が離せません。



7.アートコート ギャラリー展示の様子



8. CRISPY EGG Gallery展示の様子

また7日(日)には、「アートセンターの未来を考える」と題しトークイベントを実施。当法人の理事である加藤義夫が聞き手を務め、ゲストに、神戸アートビレッジセンター(1996年開設)、京都芸術センター(2000年開設)、大阪府立江之子島文化芸術創造センター(2012年開設)、さらに、2020年4月にオープンする兵庫県の宝塚市立文化芸術センターの方々にお集まりいただき、各施設の成り立ちから現在、そして未来についてお話いただきました。それぞれの利点、課題、今後の展望まで各地域に根ざしたアートセンターのお話は尽きることなく進んでいきました。



9. トークイベント「アートセンターの未来を考える」
ゲスト：(左から)高坂氏、山本氏、林氏



10. トークイベント「アートセンターの未来を考える」
ゲスト：高氏(写真左) 聞き手：加藤氏(写真右)



11. トークイベント「アートセンターの未来を考える」
会場の様子

作品売上に関しては、来場者数ともに上昇。売上総額は5692万(昨年4160万円)と昨年より大幅増となり、近年の中でも最も高い結果となりました。総売上点数は約790点(昨年700点)。作品の平均単価は約7万円(昨年約6万円)。また1ギャラリーあたりの作品売上は、14点で約105.4万円(昨年13点、約76.9万円)となりました。

出展ギャラリーの売り上げを細かく分析すると、売上総額が100万円を超えたギャラリーは17軒(昨年12軒)、そのうち400万円を超えたギャラリーは3軒で、久々の出展となった老舗ギャラリーや、近年継続して出展している若手ギャラリーが売り上げを伸ばした結果となりました。

ART OSAKAでは、今後も様々なお客様が日常生活の中にアートを取り入れるきっかけに、またコレクターの皆様にも新たな魅力的な作品と出会える場所となるよう力を注いでまいります。

末筆になりますが、「ART OSAKA 2019」にご来場頂きました皆様、また開催にあたりご支援下さいました関係機関、関係企業の皆様にご心よりお礼申し上げます。

特別協力：ホテルグランヴィア大阪

協賛：寺田倉庫/TERRADA ART ASSIST株式会社/ホルベイン画材株式会社/株式会社ダイム/
イリカフェ社/プリムス株式会社

後援：ART KAOHSIUNG/ワンピース倶楽部/パトロンプロジェクト/アートのある暮らし協会
イベント協力：京都市立芸術大学/宝塚市立文化芸術センター、宝塚文化芸術センター庭園開設準備室

メディアパートナー：月刊アートコレクターズ/Art Scenes（アートシーンス）



TERRADA ART ASSIST

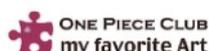


DAIMU CO., LTD.



P · R · I · M · V · S

ART
KAOHSIUNG



一般社団法人
アートのある暮らし協会
ART LIFE OF LIVING ASSOCIATION

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts - founded in 1880 -



ART SCENES

主催：一般社団法人日本現代美術振興協会

代表理事：森裕一(MORI YU GALLERY)

副代表理事：井上佳昭(Yoshiaki Inoue Gallery)

理事：林聡(ギャラリーノマル)

細川佳洋子(ギャラリーほそかわ)

石田克哉(MEM)

加藤義夫(加藤義夫芸術計画室)

八木光恵(アートコートギャラリー)

山口 孝(ギャラリーヤマグチクンストバウ)

監事：松尾良一(TEZUKAYAMA GALLERY)

ART OSAKA 事務局：

フェアマネジャー / 宮本 典子、鈴木 香澄、山岸青葉、川西遥

エキシビターレイションズ / 宮下 和秀(MUG)

写真撮影：待夜由衣子(Yuiphotop)

問い合わせ

一般社団法人日本現代美術振興協会 ART OSAKA事務局 担当：宮本、鈴木、山岸、川西
542-0062 大阪市中央区上本町西4-1-68 T. 06-7506-9347 / E. info@artosaka.jp